

シリーズ「グローバル・ジャスティス」
第16回

現在日本における男性同性愛 欧米との比較という側面

Erick Laurent



日本での同性愛に対する捉え方は、明治時代以降、男色のような現象という伝統から離れながらも間接的に欧米から著しい影響を受けた。しかし同性愛について、最近では欧米の諸社会が婚姻をはじめ大きな変化を見せている。それに比べると、日本の同性愛の特徴は、表出しない文化の存在（バー、ハッテンバ、タイポロジー）や法律の欠如、メディアによる誤った取り上げ方、ゲイの社会的な不可視性、アジア型の活動主義などが挙げられ、社会における家族・結婚・普通性の重要さなどに関連している。日本と欧米、どちらが最も住みやすいかとは言えず、どのようなシステムにおいてもメリット、デメリットを持ち合わせている。

<参考文献>「現在の日本文化における男性同性愛」『岐阜経済大学論集』35(3), 65-90頁, 2002年、「An Asian Perspective」(アジアからの視点)、Graubner H.と Tahjmindis P.『Sexuality and Human Rights』(セクシュアリティと人権) New York, Haworth Press. 163 - 225 頁, 2005年、「Anthropologie culturelle: vers une voie japonaise, ni primitive ni occidentale」(文化人類学: 未開的でもなく、西洋的でもない日本的な道へ)、Gonon A., Galan, C『Le monde comme horizon. Les Sciences sociales et humaines au Japon』(日本における人文・社会科学) Arles, Picquier. 199-292 頁, 2009年、『Les chrysanthèmes roses. Homosexualités masculines dans le Japon contemporain』(ピンクの菊、現在日本における男性同性愛)、Paris, Les Belles Lettres. 227 頁, 2011年

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時： 7月 22日 (金)

18:30-20:00

会場： 博遠館 212 番教室

来聴歓迎・予約不要

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp